

当日発言記録概要まとめ

～令和8年6月18日 新横浜駅南部地区のまちづくり～

Q1	まちづくり活動における説明会や意見交換会の参加対象はどのように決めていますか？基準などがありますか？
A1	明確な基準はありませんが、今回の説明会では、土地所有者の皆さまに周知を行いました。今後、約37haの区域を複数エリアに分けて意見交換会を開催するなど、様々な方との対話の場を設けていきます。
Q2	まちづくり計画の策定期間はいつ頃を想定していますか？
A2	地域の皆さまとの対話を重視して丁寧に進めていくため、現時点ではまちづくり計画策定の時期は設定していません。
Q3	今後の少子高齢化を見据えて、車優先ではなく、歩行者優先のまちづくりを検討した方が良いと思います。また、A I 等を活用しながら複数案のまちづくりを検討すると良いと思います。
A3	今後人口が減少していく社会の中で、地域の皆さまや次世代の人にとってどのようなまちが望ましいのか、いただいたご意見のように様々な案を比較しながら皆さまと共に考えていきたいと思っています。
Q4	過去と同様に検討しても同じ結果になるため、行政が具体的な目標時期や検討手法を提示し、リーダーシップをもって進めることも大事だと感じました。
A4	これまで、行政が示したまちの将来像が地域の皆さまに受け入れていただけなかったことを踏まえ、まちの将来像の検討段階から地域の皆さまにご意見を伺いながら、丁寧に進めていきたいと考えています。
Q5	まちづくりの検討の中で、企業はどのような形で参画しますか？
A5	企業の皆さまには、ノウハウや資金提供、周辺就業者など、地権者の立場以外にも多様な形で参画していただくことを想定しています。
Q6	過去の失敗を分析した上で、土地区画整理事業によるまちづくり前提ではなく、地域住民が長く住み続けられるような視点で考えてほしいです。
A6	これまでの経緯を踏まえて、地域住民や土地所有者の皆さまと共に、丁寧にまちの将来像を検討していきたいと思っています。
Q7	これまでの「絵に描いた餅」ではなく、土地区画整理事業の都市計画を外し、既存の環境を活かしながら段階的な整備を行い、着実に進めてほしい。
A7	既存の都市計画を見直す場合には、新たな都市計画（まちの将来像）を考えていく必要があり、将来の土地利用とインフラ整備をセットで整理していく必要があります。まちの将来像を皆さまと共に検討していくことが大切になるため、時間をかけてでも丁寧に対話を行い、まちづくりを考えていきます。